

# 歴史と街づくり活動の経緯

## 1. まちなみ形成の時期

教育者小原國芳氏が、理想とする全人教育実現のために1929年学校法人玉川学園を創設、それに伴いこの地域は発展してきました。当初は住民20数名で、1960年以降に大規模な宅地造成や世代交代による敷地分割が活発に行われ、1970年頃に現在のまちの骨格ができました。現在は人口約2万人に及びます。谷戸と尾根からなる地形を活かし、道は等高線に沿う形になっています。開発当初につくられた道路や玉石擁壁、樹齢を重ねた桜の並木道などが、当時の面影を残しています。

## 2. 活動の開始時期と活動の経緯

### 2005～2008 年度

宅地の細分化やマンション建設などによりまちなみが変わり始めたことから、有志が自治会等の賛同を得て2005年町田市住みよい街づくり条例に基づく市民団体「玉川学園地区まちづくりの会」を設立しました。そして、地域の課題整理マップの作成や環境アンケートの実施などを行いました。

### 2009～2010 年度

「玉川学園地区まちづくりプラン案（中間報告）」を町田市に提出し、玉川学園町内会にこれを提案し、町内会は「建築並びに土地造成工事に関する申し合わせ事項」を改訂しました。

### 2011～2014 年度

玉川学園地区町内会自治会連合会は、「まちづくり憲章・建築並びに土地造成工事に関する申し合わせ事項」の構成で「建築協約」として制定しました。

その後は、まちづくり担い手事業や、「まちづくり憲章・まちづくり方針・デザインガイド」（以下、冊子）の改訂・配布・普及に努め、建築協約の本格的運用を始めました。さらに、まちづくりプラン案と都市計画マスタープラン・地域別構想「玉川学園編」の具体化の検討にあたり、地域の地形的特性と変化を記した開発変遷図（時層地図）作成に着手しました。

### 2015 年度

市のまちづくり課を通して冊子は年300部配布され、建築協約は一定の効果と認識の広がりを得ています。会のメンバーは事業者との協議には協力しています。まちの歴史や構成・文脈に対する認識を広めて、開発や建築時に共有事項を活かす工夫が行われることを目的に、まちあるきやワークショップを実施しました。

### 2016 年度

まちづくりの会発足12年目を迎え、以下の活動方針に基づき具体的な活動をまちづくりアドバイザーの協力を得て行いました。2016年度は玉川学園コミュニティセンター（以下玉学CC）での展示や「時層街歩き&ワークショップ」などを行いながら会の活動紹介などに努めました。また、（一財）住宅生産振興財団主催の第12回住まいのまちなみコンクールに、これまでの地域の活動の経緯と今後の目論見などを示したものを応募し、2017年1月に審査の結果

住まいのまちなみ賞を受賞することができました。そのためこれをきっかけとして2017年度に活動の充実を図ることとしました。

### 1) 建築協約の普及活動

建築協約に基づく地域協議への協力

いくつかの土地開発・建築計画で地域協議への協力を行いました。

建築協約を含む冊子の行政への配布を継続しました。

### 2) まちづくり方針の具体的提案

玉川学園商店会・同南口商店会との協働で 駅周辺整備計画に併せ、中心市街地の魅力化策の提案や玉学 CC 建替に伴う基本計画（本体計画・デッキ設置計画）について、商店街の考え方などについて意見交換しました。

### 3) 緑地活動

花壇緑地活動と並行して2丁目・子供広場周辺での桜と緑の維持活動やイベント行事は、まちづくりの会会員と町内会2地区で自主的に行われるようになりました。

### 4) 広報活動

玉学 CC の掲示スペースを活用し、まちづくりの会の活動報告を兼ねて展示活動と街歩きをおこないました。

- 第一回 2016年7月～9月 時層地図展  
期間中7月・9月に街歩きワークショップを開催  
12月街歩きワークショップを開催
  - 第二回 2017年1月～3月  
地域につながる住まいと暮らし展を開催
  - 第三回 2017年4月～6月  
玉学 CC 建替基本設計図を展示
- ### 5) その他（他団体との協働）
- 玉川学園 CC 建替に伴う基本計画（設計）策定委員会への参画
  - 玉川学園・南大谷地区協議会・テーマ別事業  
「逃げ地図作成プロジェクト」の次年度準備（時層街歩きなど）
  - 地域活動団体・地域小学校が企画する諸行事への協力  
第五小 ふれあいサタデーへの企画と実施  
芝生の会 ギャラリーウォーク・雑巡りツアー等のガイド協力
  - 猿まわしイベントなどを、興人自治会・児童館と行った
  - (一財)住宅生産振興財団主催の第12回住まいのまちなみコンクールに応募し、審査の結果住まいのまちなみ賞を受賞しました。
  - 空家活用プロジェクトが始動し次年度への活動の一つとして位置付けました。

## 6) 今後の活動方針

住まいのまちなみコンクールの受賞を契機に、今後、持続可能なまちにするための開発方法や家の建て方を共有するためのイベントを企画しました。また、まちづくり方針、デザインガイド、時層地図の改訂、建築協約地域を示す看板の設置を考えました。住み開き、シェア、住み替え支援、空家活用などソフト面からの持続可能なまちのあり方も模索し、地域の団体とネットワークをつくりながら、エリアマネジメント活動の体制を整えていくこととしました。